Vol.77　特殊 or 複雑なヴォイシングを弾いてみる　～その 1～

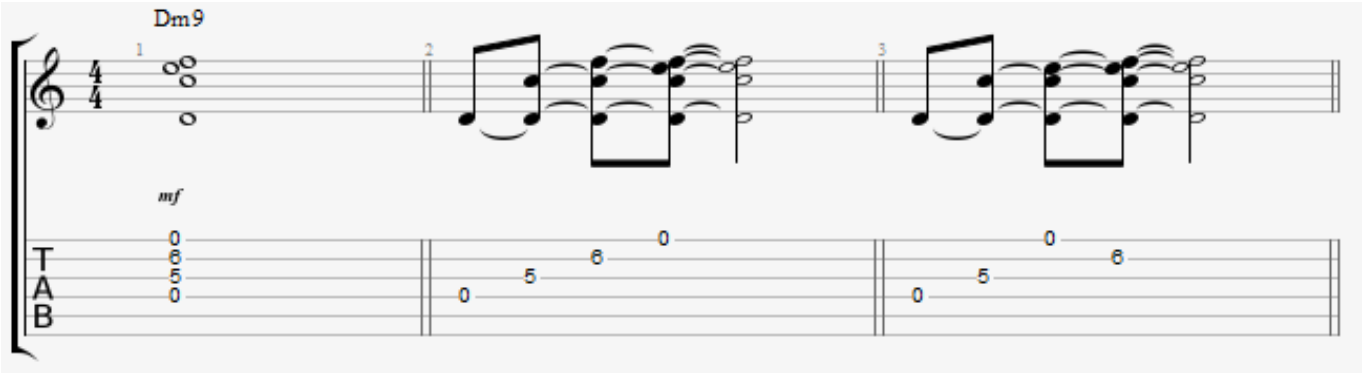
『10 分トレ』vol.77、始めていきましょう。

さて、ここ 2 回ほど、コード・ヴォイシングについてやってきましたね。

それらのテキストでは、どちらかと言えば基本的なヴォイシングのみを扱っていたので、今回はもう少し頭をひねった、複雑なものを弾いてみましょう。

この辺り、色々なパターンや方向性が考えられますが、とりあえず比較的シンプルなものから見ていきます。

譜例 1、解放弦を活かしたヴォイシング 1



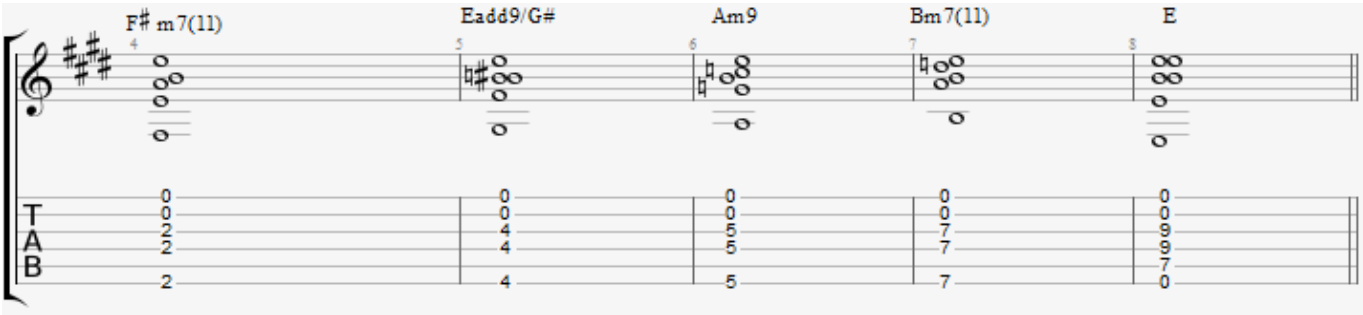
これはギターならではのヴォイシングですね。

簡単に押さえられるわりに、豊かな響きを得られます。

構成音は、低音弦側から root(D)、m7th(C)、m3rd(F)、♮9th(E)となっていて、2 弦の音の方が 1 弦の音よりも高いのがポイントです。

譜例の 2、3 小節目の様に、1、2 弦のどちらを先に鳴らすかでも結構雰囲気が変わりますね。

譜例 2、解放弦を活かしたヴォイシング 2



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

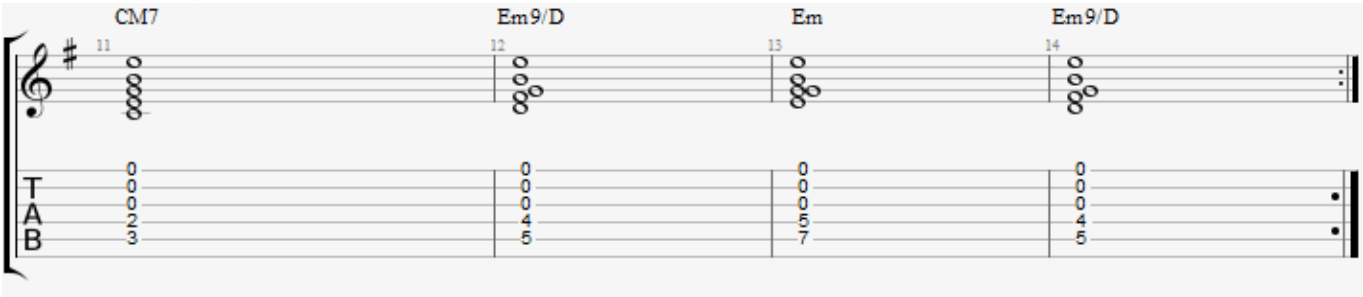
こちらもまた、押さえるのが簡単なわりに、カッコいいものになっています。

譜例は全音符になっていますが、実際に弾く場合は、適当なストローク・パターンを付けてやると良い感じのフレーズになります。

手の動きが単純な割には、解放弦がテンションに該当する部分が多く、それなりに高度な響きを形成していますね。

4 小節目の Bm7(11)は、Asus4/B の様に解釈しても良いかもしれません。

譜例 3、解放弦を活かしたヴォイシング 3



最後になりますが、こちらも大まかな発想としては譜例 2 と同じですね。

ちなみに、譜例 2 の方は E キーで、譜例 3 の方は G キーもしくは Em キーになっています。

実は解放弦は、どちらかと言えば♯の付くキーの方が使いやすい事が多いです。

ある程度、キーごとにパターン化してしまえば、マッチするキーでは左手を楽な状態に保てる事も結構ありますので。

さて、複雑なものをやる、と言いつつも、今回は解放弦をメインに考えた譜例なので、そこまで難しいものではありませんでしたね。

次回以降、もう少し構造が入り組んでいる様なコードヴォイシングを見ていきたいと思います。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved